

# 製造業の持ち直し鍵

県内経済の昨年1年間と今年の展望について、鶴屋洋一郎日本銀行水戸事務所長に聞いた。

― 昨年の本県経済を振り返って。

昨年の県内経済は外需がさえず、製造業の生産活動に弱い動きがみられたが、次第に内需が回復してきたことで、緩やかながらも回復基調が続いた。低金利環境に支えられ、住宅投資は持ち家建設が堅調。公共投資も失速せず、夏場以降の天候影響に悩まされた個人消費も全国的に見ればやや高めの水準で推移した。昨年12月の企業短期経済観測調査（短観）の結果からも

## 鶴屋洋一郎日銀水戸事務所長



県内経済情勢の展望を語る鶴屋洋一郎日銀水戸事務所長

製造業を中心に改善方向に転じてきたことがうかがえる。今年は明るい期待を持つてスタートが切れるのではないか。

― 2017年の展望は。

県内経済の回復が加速するかどうかは、製造業の持ち直しの動きの持続性にかか

っており、海外経済の動向が鍵を握りそう。最近の円安株高や海外経済の持ち直しで、企業マインドも向上している。海外の景気がさ

らに上向けば県内景気の回復テンポも加速していくのではないかと。ただ、米国トランプ新政権の経済対策や

英国EU離脱に向けた交渉など不透明感が高く、注視する必要がある。内需は政府の大型経済対策の予算執行が本格化し、県内経済にも波及するとみられ、回復基調が続くとみられる。

― 経済成長への課題は。

生産の回復が本格化すれば、人手不足が一段と深刻化し、企業の収益が圧迫される可能性がある。女性や高齢者が働きやすい労働環境の整備や給与処遇の改善も含め人材への投資が欠かせない。人手不足の底流には、人口減少や高齢化問題があるため、個別企業の取り組みだけでは対応できない。行政や金融など多様な関係者が連携し、地域の稼ぐ力を引き上げ、魅力ある仕事を創出していくことが重要だ。